

パラ競技体験イベント、東京大会向け本格的に始動

将来のパラリンピック選手を発掘しようと、日本障がい者スポーツ協会（鳥原光憲会長）は8月23日に都内で、競技体験イベントを初めて開催した。全国から10～25歳の70人が参加。現役のアスリートが参加者に指導する場面もみられた。

今回体験できたのは15競技。アイススレッジホッケーや、バイアスロンのビームライフル、車いすフェンシングなど、普段なかなか体験できない種目も並んだ。初めてベンチプレスを経験したという10代男性は「体を動かすことでストレスの発散にもなる。世界が広がると思った」などと話していた。

またプールでは、パラリンピックとオリンピック選手による模範泳法が披露された。間近で世界レベルを見た子供たちからは「やっぱり速い」などの声

があがった。その後、アスリートが子供たちに「もっとお腹をしめるように意識してみて」など直接指導が行われた。

東京大会は、2020年8月25日から9月6日まで、22競技が行われる。日本の金メダルは北京大会とロンドン大会で各5個で、東京大会では22個の金を目指して掲げる。強化に向けた予算は今年度21億円と、昨年度の3倍に増えるなど機運も高まっているという。

山田登志夫・同協会常務理事は「会場は熱気にあふれており、世の中の関心は想像以上に高い。6年後に向け、本格的なスタートを切った」と話した。

（福祉新聞・第2682号 2014年9月1日）